

平成27年度
事業報告書

社会福祉法人 微笑福社会
野登ルンビニ園
ルンビニ児童館

社会福祉法人 微笑福祉会
野登ルンビニ園 平成27年度事業報告書

1 施設運営

(1) 児童の処遇

ア クラス編成と保育日数

クラス名	年齢	規定 保育士数	配置 保育士数	園児	
				4月数-年度末予定数	3月数
つくし	0歳	1	1	0-3	2
	1歳	1	2	3-5	6
たんぽぽ	2歳	2	3	9-14	15
ばら	3歳	1	2	10-13	15
さくら	4歳	1	1	18-17	18
ひまわり	5歳	1	1	17-16	16
フリー		2	3		
一時預かりチューリップ組		1	2		
園児合計				67名	73名
子育て支援センター		2			
児童館		2			
延長保育担当フリー		1			
職員合計		22名（保育士15人 その他7名）			

月別保育予定日数（ ）内は土曜日

4月	5月	6月	7月	8月	9月	合 計 開園 289日 一時 241日
20(4)	21(3)	20(5)	22(4)	20(4)	19(4)	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
22(4)	20(4)	19(4)	20(4)	19(4)	19(4)	

※延長保育は朝の30分のみ利用

イ 行事予定

日々の行事、食育、お出かけ保育、園開放予定 ※行事予定表参照

ウ チューリップ組

○一時預かり 年間利用延べ数 516人

○チューリップ組ベビー（月齢 5か月より） 年間利用延べ数38人

○1号認定 利用なし

エ 子育て支援センター

○水曜遊ぼうデー、木曜リトミック、毎月第3火曜茶道講座、毎月一回フラワーアレンジメント講座等、野草料理教室、座談会、人形劇等の行事に加え、絵本の読み聞かせや右脳開発のフラッシュカードを親子で体験することで、今の時期の発達に必要な啓発を行った。

○亀山市元気っこ育成事業補助金で、身体づくりに役立つ屋内遊具を購入した

エ 健康管理と食育

・毎月身体測定をし、生育を確認

- ・ブレインジムの導入2年を経て、毎朝の体操後にPACEを取り入れた。
- ・「もぐキッズ」を月に数回行い、食材を詳しく観察したり、種や苗から育てた野菜の収穫や調理、調理法の違いなどを詳しく伝えることが出来た。本来なら家庭で自然に行われている「教育」がいろいろな意味で無理になってきたこの時代に、衣食住を通じて子ども達に「文化」を伝える基礎を作る
 - ・10月より給食に「重ね煮」を導入、使用砂糖量を1/2～1/3に減らすこと、味噌蔵から無添加の豆味噌・醤油を購入、非加熱の塩を使用することが出来るようになった。

オ 安全管理

- ・交通安全教育
- ・非常災害時の避難訓練(火災、地震、不審者)を毎月1回～2回行い、終了後改善点などを反省として書き出し、次回に反映させるよう訓練を行った。

カ 修繕

- ・デッキの南側の木の腐食部分を取り除き、ゴムチップと柱ベンチに替え、走り回って遊べるスペースとした。

(2) 職員の処遇

ア 労務、給与、など処遇に関して

- 昇給は最高額で9,800円アップ、夏冬に加えて年度末の賞与も支給することが出来た
- 健康診断 のぼのクリニックにて診察 全員異常なし
- 細菌検査 調理員は月2回の検便
乳児担当のみ(パート含む) 毎月1回検便

イ 職員会議

- 定例会 毎月の職員会議に加え、各セクションのリーダーが集まったの代表者会議、以上児会議、未満児会議等を定期的に行い、意識あわせとチーム保育推進の為の機会を多く持った。
- 随時招集のもの・・・行事前打合せ会議、各委員会ミーティング、ケース会議等必要なときに担当が召集し行った。

ウ 研修

- 三重県保育協会各種研修
- 社会福祉協議会研修
- 日本福祉協議会各種研修
- 中部地区研修
- 亀山市連絡協議会研修
- 発達障害や気になる子についての研修
- リズム研修

等お知らせがある度職員に詳細を回覧し、希望者が参加した

またMBTIテストの未受講者の研修、わら宿泊にて重ね煮研修、園長の労務・新制度コミュニケーション研修参加・発達・アクティブラーニング導入の為等の園外研修、ブレインジムやロールフィング研修など心身発達の為の園内研修を行った

2 地域社会との連携

- 野登地区推進協議会の協力にて、伝承行事などを地元の方々の交流と共に行った(芋の苗植え→芋ほり→焼き芋、運動会、作品展他)
- 敬老会や地区運動会など、地域の行事への参加
- いのこなどの伝承行事を継承するため地域の方の指導

- 園と隣接するデイサービスの施設へ出かけて行ったりご招待したりして交流を行った
- 地区のお年寄りが集まる「生き生きサロン」や「フラットホーム」